

## クリ家具用板材の天然乾燥試験結果（春季栈積み）

### 1. はじめに

県産広葉樹材の利用促進に向け、樹種や用途に対応した乾燥技術を開発するため、家具用クリ板材の天然乾燥試験により含水率や割れ・狂いの推移を調査した。

### 2. 実験方法

#### 2.1 材料

岩手県産クリ丸太 10 本から製材した生板材 55 枚（長さ 2m×幅 120mm×厚 40mm）を供試した。

#### 2.2 乾燥試験

令和6年5～9月に、当センター敷地内に写真1のように栈積みし、屋根をかけた。定期的に各板材の重量を測定し、割れ・狂いについては、JAS1083-6(広葉樹製材)に準じて測定した。測定後、栈積を復元し、試験を継続した。また、試験終了時に各板材から材片を採取し、全乾法により含水率を算出した。

### 3. 結果

#### 3.1 含水率(図参照)

天然乾燥日数が 0, 14, 77, 117 日と増加するに伴い、含水率の平均は 108, 60, 19, 18%と推移した。春から夏にかけての天然乾燥では、2カ月程度で含水率20%を下回るまで乾燥が進行した。また、クリは丸太によって含水率のばらつきが大きい樹種であるが、乾燥の進行に伴い、板材間の含水率のばらつきは漸減した。

#### 3.2 割れの程度(表の「割れ」及び写真2参照)

試験終了時の割れの長さ(平均±標準偏差)は、干割れが 71±108mm, 木口割れが 72±50mm だった。

#### 3.3 狂いの程度(表の「狂い」及び写真2参照)

試験終了時の狂い(平均±標準偏差)は、曲がり が 2±1mm, そりが 4±4mm, 幅そりが 0.7±0.5mm, ねじれ が 1.1±1.5mm だった。

### 4. おわりに

2カ月程度で含水率20%以下まで乾燥が進行し、含水率のばらつきも小さくなった。割れ、狂いは全体的に軽微だったが、家具用材の一般的な仕上げ含水率(人工乾燥)は10%程度とされることから、人工乾燥処理後の状態にも留意する必要がある。

今回は、冬季の天然乾燥試験結果について報告する。



写真1 クリの栈積みの状況

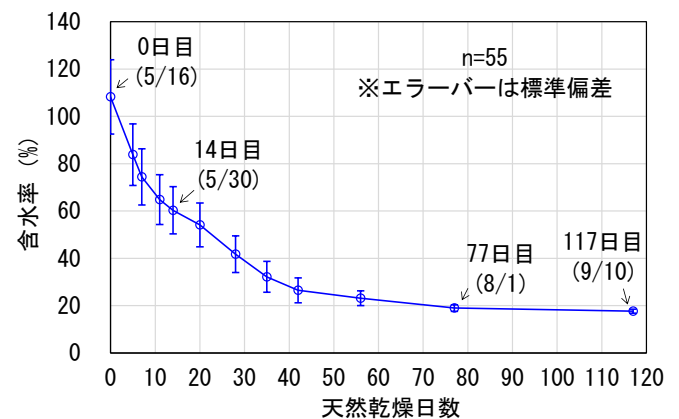


図 クリの含水率推移

表 クリの割れ・狂いの程度 (n=55, 材面未調整)

測定項目	平均	標準偏差	最大	最小
割れ (mm)				
干割れ*	0日目 0	0	0	0
	14日目 50	78	315	0
	117日目 71	108	638	0
木口割れ	0日目 0	2	14	0
	14日目 34	33	146	0
	117日目 72	50	297	0
狂い (mm)				
曲がり	117日目 2	1	5	0
そり	117日目 4	4	5	13
幅そり	117日目 0.7	0.5	1.5	1.6
ねじれ	117日目 1.1	1.5	6.5	0.0

※ 干割れは、不良面(欠点の程度の大い方の材面)における割れ長さの合計値とした。



写真2 クリの材面の状況(117日経過後、栈積み6段目)

(担当：研究部 主任専門研究員 山口 晃輔)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
 岩手県林業技術センター  
 ホームページアドレス：<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536  
 FAX 019-697-1410